

【全体概要】

大分県産いちごは出荷期間が長く、高温期の品質は一定の評価を得ているが、厳寒期の着色等品質向上を実需者から求められている。このため、県育成品種「大分6号」を実需者ニーズを反映した商品として、栽培技術・販売方法の確立を行いコンソーシアム候補を形成する。

新品种・新技術等の概要

【大分6号】品種登録出願:平成29年2月 出願公表:平成29年5月
(商標「ベリーツ」:平成29年12月登録)
「大分中間母本」と「かおり野」の交配品種

【大分6号の特徴】

- 極早生性
- 果実は鮮やかな赤色で糖度が高い
- 花房の連続性があり、
2月末までの早期収量が多い
- 果実が硬く長期出荷が可能



主な取組内容

【品種・技術の特性把握】

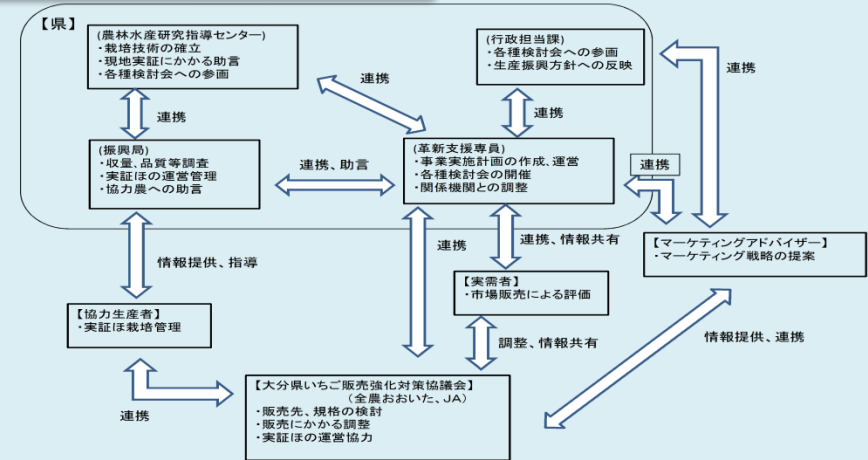
- ・新品种の実証圃を設置(県下6地域、14ヶ所)。
育調査および品質調査等により問題点の把握と改善策を検討。
- ・現地検討会、実績検討会の開催

【産地・実需者とのマッチング活動】

- ・新品种の出荷規格、パッケージングを検討。
- ・市場での品質調査および
実需者(市場、仲卸)との意見交換会を実施。
- ・ブランド化に向けて、消費地でのイベントに参加、
新品种を紹介。



コンソーシアム候補の体制図



実績と今後の展開

【実績】

- ・新品种栽培面積 H29年産1ha→H30年産7haに拡大。
- ・試験研究結果および2カ年の実証ほでの取り組みを踏まえ栽培マニュアルを作成。
- ・関係機関および実需者と連携し、出荷規格表を作成。有利販売に向けたアイテムを検討し新アイテムでの販売が開始された。

【今後の展開方向】

- ・新品种の新たな課題(栽培面、販売面)の解決向け、引き続き関係機関が一体となり取り組みを行う。
- ・新品种で発生が多くみられている病害虫について、IPM実証ほを設置し技術の検討、普及を図る。
- ・県下全域で新品种の普及を図る。